

司式 杉山昌樹牧師
奏楽 五十嵐美代枝姉

前 奏

開 会 招 詞 詩編24編7-10節

* 賛 美 歌 12:1 (ソングシート)

1. 聖なる、聖なる、聖なるかな、三つにいまして 一つなる

神の御名をば あさまだき おきいでてこそ ほめまつれ。 アーメン

* 開 会 祈 禱

罪 の 告 白 祈禱書2 罪の告白①

神よ、わたしを憐れんでください。御慈しみをもって。深い御憐れみをもって、背きの罪をぬぐい去って
ください。わたしの咎をことごとく洗い、罪から清めてください。わたしは咎のうちに産み落とされ、
母がわたしを身ごもったときも、わたしは罪のうちにあったのです。わたしを洗ってください。雪よりも
白くなるように。神よ、わたしの内に清い心を創造し、新しく確かな霊をさずけてください。救いの喜び
を再びわたしに味わわせ、自由の霊によって支えてください。主よ、わたしの唇を開いてください。この
口は、あなたの賛美を歌います。 主イエス・キリストの御名によって。アーメン。 (詩編51)

罪の赦しの宣言

十 戒 祈禱書4

1. あなたは、わたしのほかに、何者をも神としてはならない。
2. あなたは自分のために刻んだ像を造ってはならない。それにひれ伏してはならない。それに仕えてはならない。
3. あなたは、あなたの神、主の名を、みだりに唱えてはならない。主は、みなをみだりに唱える者を、罰しないではおかない。
4. 安息日をおぼえて、これを聖とせよ。
5. あなたの父と母を敬え。
6. あなたは殺してはならない。
7. あなたは姦淫してはならない。
8. あなたは盗んではならない。
9. あなたは隣人について偽証してはならない。
10. あなたは隣人の家をむさぼってはならない。隣人の妻、またすべて隣人のものをむさぼってはならない。 (出エジプト20、申命記5)

* 賛 美 歌 15:1,2

1. わが主の御業は ことごとく正し、妙なるみむねに 凡てを任せん。

主はわが神なり、ともしき時の わがたすけなり。

2. わが主の御業は ことごとく正し、あらしの中にも 安けく憩わん。

主はわが父なり、なやめる時の わがすくいなり。アーメン

公 同 の 祈 禱 6 使徒信条

われは天地の造り主、全能の父なる神を信ず。われは、その独り子、われらの主イエス・キリストを信ず。主は、聖霊によりて宿り、おとめマリアより生まれ、ポンテオ・ピラトのもとに苦し

を受け、十字架につけられ、死にて葬られ、よみに降り、三日目に死人のうちよりよみがえり、天に昇り、全能の父なる神の右に座したまえり。かしこより来たりて、生ける者と死ねる者とを審きたまわん。われは聖霊を信ず。聖なる共同の教会、聖徒のまじわり、罪の赦し、からだのよみがえり、とこしえの命を信ず。 アーメン。

献 金 (黒) 教会活動・(赤) ギデオン協会 70

今献ぐるそなえものを 主よ 清めて受けたまえ アーメン

聖書朗読 詩編15編1-5節(旧約 p.845)

コロサイ3章5-11節(新約 p.371)

説教・祈祷 「キリストの横に」 杉山昌樹牧師

* 賛美歌 44:1, 2

1. 山辺に向かいて我 目を上ぐ、助けはいずかたより きたるか
天地の御神より 助けぞ我に来る。

2. 御神は汝の足を 強くす、みまもりあれば汝は 動かじ。

御民をば守る者 まどろみ眠りまさじ。アーメン

* 主の祈り 祈祷書1

天にまします我らの父よ

願わくは御名をあがめさせたまえ

御国を来たらせたまえ 御心の天になるごとく 地にもなさせたまえ

我らの日用の糧を 今日も与えたまえ

我らに罪を犯す者を我らが赦すごとく 我らの罪をも赦したまえ

我らを試みに会わせず 悪より救い出したまえ

国と力と栄えとは 限りなく汝のものなればなり アーメン。

* 頌 栄 65

父、み子、みたまのおおみかみに、ときわにたえせず みさかえあれ。アーメン

* 祝 禱

後 奏 (黙禱)

報 告 雨宮信長老 (司会・受付 次週：古澤兵庫長老)

本日 受付 1階：森永美保・加藤良明執事 2階：若月学執事 / ZOOMホスト・録音：門脇光生

次週 受付 1階：藤井牧子・大日南隆夫執事 2階：大日南信也執事 / ZOOMホスト・録音：大日南信也

※ グループ制により、長老も1階と2階に一名ずつ加わります。

コロサイ3：5-11「真実をもって」

教会形成の原点

この会堂に入る前にとおる階段の登り始めの所に今年のテーマが掲げてあります。その中に「教会形成の原点」という言葉があります。大変重要な言葉です。これがわかれば後はそれに向かって進んでいけばよい、というほどに大切な言葉です。そして、実は今日お読みしましたこのコロサイ書の中に、すでにそのカギになりそうな言葉、少なくとも教会形成に向けてこれは是非とも実行しなければと思う言葉がいくつかあります。今日はその言葉を一緒に確かめたいのですが、さしあたりその中心になる言葉は10節にあります。それは「造り主の姿に倣う新しい人」という言葉です。とりわけ「造り主の姿」が重要だと私は考えています。

造り主イエス

ところで、この場合の造り主とはだれかですが、一般に私たちは、創造は神様がされたと教えられています。しかし、このコロサイ書にはこんな言葉がありました。「御子は、見えない神の姿であり、すべてのものが造られる前に生まれた方です。天にあるものも地にあるものも、見えるものも見えないものも、王座も主権も、支配も権威も、万物は御子において造られたからです。つまり、万物は御子によって、御子のために造られました。」（コロサイ1：15, 16）。イエス様はすべてに先立って神様と共におられ、神様と共に世界を創造された、そればかりか、まさにこのイエス様のために世界は創造された、とパウロは理解していたことがわかります。世界の中心はイエス様なのだ、というのです。そして、私たちはそのことがわかるようにされていて、そして、そのイエス様の姿、イエス様の像、「ぞう」という漢字を使いますが、イエス様のお姿に似たものになっていく、これが私たちがすべきことだ、とパウロはこのところで言っているのです。それも、日々、そのようになっていく、というのです。私たちは、毎日服を着替えます。暑さ、寒さによって着るものを重ねたり、脱いだりします。同じように私たちは、いらぬものを脱いで、必要な物を着て、ということをやっと繰り返していく、そうして生きていく、というイメージでしょうか。

何を脱ぐのか

その場合に、私たちが脱いだものとして示されているのが、5節と8節の言葉です。今一度5節を読みます。「だから、地上的なもの、すなわち、みだらな行い、不潔な行い、情欲、悪い欲望、および貪欲を捨て去りなさい。貪欲は偶像礼拝にほかならない」。正直なところ、これだけでは具体的なことは良くわからないのですが、初めの三つはおそらく性的な意味です。コリントの教会では信仰者であってなお、悪所に通うという人たちがいたようですけれども、そのような不適切な性関係です。あとの二つはどちらかと言いますと、お金に関わることのようにです。こういってしまいますと身もふたもないのですが、ようは異性とお金の問題です。ただ、そこであえて言いますと、問題は、この異性とお金にすっかり囚われてしまっている状態、そればかりを気にして、生き方そのものが異性とお金をめぐっての駆け引きをしているような生き方です。それは異性とお金自分の偶像になっている、関心そのものになっている、とパウロはいうのです。そしてそれこそが地上にばかり目が向いた生き方です。そしてここではそれを捨て去りなさい、という強い命令がなされているのです。私たちは洗礼を受けたときに、すでにこのような生き方とはきっぱり縁を切ったはずなのです。けれどもパウロはあえてここで「捨てなさい」と言っています。それはおそらく、私たちの中になお、この古い人の残りかすのようなものがあるからです。もちろん、私たちは、おかしな店に行ったり、人を傷つけるようなことをして利益を得ようとする、ということはしていません。

以前と今

しかし、7, 8節で言われております以前の生き方、わたしたちが生まれたままに生きていたころのあり方、イエス様と一緒に生きるようになる前のあり方がどうであったのか、という問いかけと、そして、特に8節において示されております、地上的な歩みをしている人の内面、心のあり方の特徴を見ますと、これは決して他人事ではないことに気付くのです。改めて8節を読みます。「今は、そのす

べてを、すなわち、怒り、憤り、悪意、そしり、口から出る恥ずべき言葉を捨てなさい。」。ここでも細かいことを言いますときりがないのかもしれませんが。ただ、例えば最初の「怒り」という言葉は、どちらかと言いますと、じっとりとした恨みつらみを抱え込んでいるような怒り、のことですし、その次の「憤り」と訳された言葉は、思わずドツと出てきてしまう爆発的な怒りです。そして、注目したいのは、ここではっきりと「口から出る」とあることです。私たちの口から、このような言葉が出てくるけれども、それを捨てるのだ、とパウロは言うのです。そして、これは、教会の内部でもそうですし、外でもそうです。そしてこれは、聞いて終わり、頭でわかって終わりということではないのです。むしろ、日々の具体的な生活において、このような言葉と戦っていかう、口にしないようにしていこう、という導きの言葉です。今日は最初に「教会形成の原点」という言葉を確認しました。もし、そのような原点があるとしますと、わたしたちが、このような言葉を真剣に受け取っていくことが、一つは大きな出発点になるはずで

古い人を脱ぐ一嘘をつかない

それで私たちが、教会で生きていく、あるいは教会から派遣されてこの世で生きていく、その場合に、基本になるものがあるとパウロは言います。それは9節にあります「互いに嘘をついてはなりません」という言葉です。とても単純な言葉です。幼稚園で「嘘をついてはいけません」と教えられた経験がある方もおられるでしょうか。それほど単純な言葉です。けれども、実は難しい言葉です。それは他者に対して、いつでも、どんな場合でも、誠実であることです。真実であることです。本気で向き合うことです。それを教会の中から始めて、世界に広げていこうというのです。誰かと向き合っている状態を思い描いていただきたいのです。相手をしっかりと見据えたうえで、向き合ったうえで、その人を苦しめるような言葉を平然と投げつけることができるでしょうか。それほど、向き合うことが大切なのです。それゆえ、教会の中でこのことが実現していくのなら、先ほどの8節で示されたような、偽りの言葉、怒りの言葉は生き残っていけないのです。滅んでいくのです。そこでは古い人は、確かに脱ぎ捨てられていくことになるのです。その際、決定的に大切なことは、偽らないこと、真実をもって歩むことです。では私たちはどのようにして真実に生きることができるでしょうか。

造り主の姿－真の知識

今日は最初に「キリストの像」ということをお話ししました。それは10節の言葉でした。ここで改めて10節を読んでみます。「造り主の姿に倣う新しい人を身に着け、日々新たにされて、真の知識に達するのです。」。この造り主がイエス様のことであることもすでにお話ししました。ここでは、新しい人ということが言われます。わたしたちは、この新しい人を日々着続ける、というイメージです。そしてその新しい人とは、イエス様の像として私たちに示されているということになります。一言で言えばイエス様に似たものとなるのです。その場合に、私たちにルカによる福音書の良いサマリア人のたとえ話の言葉を思い出したいのです。あのサマリア人、すなわち、敵である人が倒れていた場合に見捨ててしまうのではなく、かえって手当をして、それだけではなく、宿に連れていき支払いをし、そしてお礼を求めることなく去っていく、というあのありかたこそ、イエス様のお姿そのものです。

教会で生きる－多様性との出会い

それは、あまりにも高い目標に感じられます。私たちは、生きていく間、あのイエス様のお姿に到達できるだろうか、とすら思われます。けれども、あれが目標だと、あれがヴィジョンだとすでに示されているのです。そこへと私たちは招かれているのです。そうであるからこそ、毎日、毎週の生き方が大切になるのです。私たちは、毎日の生活を通して、あのイエス様のお姿に向かっていけば、訓練をしていくのです。その場合に導き手はいつでもイエス様です。聖書に示されましたイエス様のお姿です。み言葉に聞くとはそのようなことです。そして、私たちは、教会で、そしてこの世で、まさに、具体的な出会いの中で、あのイエス様のように生きるにはどうしたらよいかと、悩むことへと招かれているのです。それは例えば、11節に示されているいろいろな種類の人たちが端的に示しています。このところで組み合わせられている人たちが、具体的にどのような人たちなのかは必ずしも明らかではありません。例えばスキタイ人がどんな人たちであったのかはすでによくわかりません。ただ、おそらくは対

照的な社会的地位を持った人たちです。それがはっきりと表れておりますのが、割礼の人、無割礼の人、自由人と奴隷という組み合わせです。教会の中にも、社会の中にもいろいろな立場の人がいます。かなり異質と思われる人がいますし、いていいのです。

真の知識-造り主の像

その中で、この人とどうかかわったらいいのだろう、この人と真剣に向き合うことができるだろうかと自ら問うことをパウロは求めているのです。この人たちと分け隔てなく付き合うためにはどうしたらいいだろう、と問うことが求められているのです。そして、その答えは、いつでも、イエス様ご自身のお姿にしかないのです。イエス様がどうされたのかを訪ね、イエス様が歩まれたように歩むためにはどうしたらいいのかを祈るのです。そのように歩むことができないのなら、自らを変えていただけるように助けを祈り、力を与えて下さるように祈るのです。そうして、日々を過ごしていくことが実は、私たちがイエス様の形に作り替えていくことになり、私たちが真の知識を得ることへとつながっていくのです。

造り主の像

そのようにして、わたしたちが教会で、またこの社会でキリスト者として誠実に歩む時に、私たちの導き手はいつでもイエス様であることが、いわば身についていくのです。そしていつでもイエス様に聞いていくことにおいて、11節の最後の言葉が実現していきます。それは「キリストがすべてであり、すべてのものの内におられるのです」という言葉です。私たち一人一人の内に、イエス様がおられるようになっていくのです。そして、イエス様が内において下さるようになっていくことにおいて、私たちはキリストの形に似たもの、イエス様の像を表すものへと変えられていくのです。

真実をもって

教会が形作られる、教会が形成される、建て上げられていく、どのような言い方をしましても、その原点にありますのは、イエス様ご自身です。そして、そのイエス様と私たちのまじわりです。そしてイエス様と私たちのまじわりは、空想的なものではなく、ただ、現実の隣人と向き合うところで形作られます。わたしたちが、現実的に教会でまじわることをあきらめず、むしろ真剣に互いに向き合うこと、真実をもって接することから教会形成は始まっていくのです。

祈り

主イエス・キリストの父なる神様。聖名を賛美します。あなたは私たちをご自身の子としてくださいました。また、ご自身の子にふさわしく、整えようとしてくださっておりますことを覚えて感謝します。私たちの内になお古い人があります為に、私たちはあなたによって新しい人を着せていただくことが必要です。そして、私たちの中で新しい命が育っていくことが必要です。神様、どうぞこの週の歩みに、その出会いの中に、あなたの導きが豊かにありますように。そして私たちがいよいよイエス様の弟子として生きられますようにお導き下さい。主イエス・キリストのみ名によって祈ります。